

長崎教区で慶讃法要

長崎教区・長崎教堂の親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要が11月8、9日、長崎県諫早市の長崎教堂で営まれた。教区内10組ぐみが2日間に分

れて参拝、芝原文雄主管を導師に「新制御本典作法」をつとめた(写真)。参拝した僧侶、門信徒、スタッフなど延べ370人が念仏繁盛への思いを新たにした。法要には各組代表が結衆けつしゅう



として出仕し、教区内僧侶有志でつくる自鳴会しみやうかいの会員が奏楽員をつとめた。おつとめに続き、慶讃法要の特命布教講師の深水健司さんが記念法話を行った。

また、新型コロナウイルスの影響で法座が減少し、聴聞の機会も少なくなっていることを踏まえ、協賛行事は「法話」。安芸教区の僧侶有志で活動する伝道集団「アサカラザル」の久留島法曉くろしましやうさん(広島市・圓止寺衆徒)、宮武大悟さん(同・西念寺副住職)が漫才法話を言い、笑いとともに、わかりやすく浄土真宗のみ教えを伝えた。